

岩木山が見える土地に暮らしたい

居間の窓から岩木山が見える。居間の外に縁側を付け、そこからも眺める。そういうロケーションの土地に家を建てて暮らしたい。——念願叶って、見晴らすリング畑の向こうに岩木山が裾を広げる格好の地に完成した畑井様邸。縁側に座って岩木山を眺めている写真撮影に、「ご夫婦は快く応じてくれた。『家を建てる時が人生で一番いいとき』を象徴するような笑顔の家族写真……。ウッドデッキを、「縁側」とご主人は呼んだ。懐かしみあるその呼び方のほうが、外壁が焼きスギの「木の家」の佇まいには似合っていた。岩木山を望む居間で、県木住に依頼した経緯を伺った。



2021年度第14回あおもり産木造住宅コンテスト
優秀賞受賞

ユーザー訪問

畑井将太・美雪 様邸

DATA

弘前市若葉 2021年4月竣工

■延べ床面積/28.00坪(約92.56㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、内壁、天井、縁側)、アカマツ(梁)など。

要望は自然素材の平屋 子供の健康を最優先に

取材を始める前にお施主に確認しなければいけないことの一つに「名前」がある。「本」(『青森県産材の家』No.Ⅻ)に載せる名前はフルネームにしますか、名字だけにしますか、それともイニシャル——。聞き忘れたことに気が付いたのは、取材後に弘前から青森へ戻る途中だった。

さつき、カメラを向けたときの、縁側に座ったご家族の姿がよみがえる。4歳上の男の子はママの膝におおむけになって甘え、今年の12月で2歳になる下の女の子も笑みをふりまいてサービス。撮った写真は、来年(2022年)3月に発行する「本」に掲載するのだから、ぜひ



名前はフルネームで……と、そこで聞き忘れたことに気が付いたのだった。県木住の佐藤時彦代表にメールした。



「木」と壁の「白」とのバランスがちょうど良く調和したリビングは家族のくつろぎの場



窓越しに岩木山をひとり占めできるリビングの特等席

へ畑井様のお名前の件、確認を
忘れました」

すぐに返信がきた。

へフルネームでお願いします。
将太様。美雪様」

山肌に新緑が広がる春から、
頂上が冠雪する冬へと巡る四
季折々の岩木山を、居ながらに
して眺められる畑井将太・美雪
様邸。居間の掃き出しの高さ2
m、幅1間半(約273cm)の
窓枠が額となって「生きた絵」
を毎日映し出す。

ご主人の話 建てるなら岩木
山が見える家、とは以前から
思っていたことです。窓は大き
くて、その窓一杯に岩木山が眺



家の暖房全てをまかなう薪ストーブ。自転車はご夫婦のサイクリング用

められるようなね……。家は2階建てではなく、平屋。2階建てだと、子供が2階の子供部屋にこもりがちになるから、平屋で、家族が触れ合いながらのびのびと育ってほしいなと。子供が遊んだり勉強したりして過ごせるように居間は広くしてね。自分も子供の頃はそうでしたから。2人目の子供が生まれ

て、アパートが手狭になったので、家を建てようかと……。——土地はどのようにして探しましたか。不動産屋ですか。
ご主人の話 ネットです。情報を調べて、要望に合いそうな土地を見て歩いたんです。10数件は見たでしょうね。なかなか気に合う土地は見つかりませんでした。それでも、残り物に福

があるんじゃないですけど、あったんですよ、最後に。ここにも物件がある……。とクリックしてみたら、要望にぴったりだったんです。広くて、岩木山が見えて、周りはリング畑で民家がない。どうしてこんないい場所を最初に見に行かなかったのか……。すぐに行ってみました。

を満たしている点では合格でした。ただ、空き地のまま家が建つことがないようだったので、地盤は大丈夫なのかなという不安がなくはありませんでした。でも、その一帯は住宅分譲地ですし、すぐ北側のお隣には家が建っているのだから、問題は無いでしょう。

ご主人の話 土地を買われた人がいるんですけど、結局は建てなかったんですね。道路からの高さが1mもあるので、盛り土をして土留めをする余分の工事費がかかりそうだけど、「岩木山」と「平屋」が叶うこれ以上の土地はもうないでしょう。決めました。

スギの心地よさ再発見 柔らかな心が豊かに

奥様の話 土地と並行して工務店探しも進めていました。広告とかチラシを見て、要望に合いそうな住宅の完成見学会には行きました。上の子に喘息があるので、建物の必須条件は

がどーんと見えていました。これだよ、これ、と興奮しましたね。岩木山がまるごと見えるだけでも要望の8割はクリアです。角地で、陽当たりが良く、周りに人家もないし、平屋を建てても駐車スペースと庭までも取れる広さがある。100坪。よし、ここにしようかと妻に同意を求めました。
奥様の話 岩木山が見えること、平屋で建てること——その要望

「自然素材」であること。健康が最優先です。見学した五所川原市の家も、青森市のリフォームの家も平屋で、建てたのは県木住でした。その時点ではまだ県木住の家は見て参考にするとという段階でしたけど、「いいな」とは思っていたんです。惹かれるものがありました。

ぐんと県木住を身近に感じたのは、『青森県産材の家』という住宅の本がきっかけでした。木の家を建てた知り合いの方から頂きました。パラパラとページをめくっていて、手が止まったのは、リビングが大きな写真でした。床や壁や天井にも張られた木の雰囲気柔らかいので、温かそうで、いいなあ、と見入りました。県木住の家でした。見学会の家も良かったけど、本で見た家には

惹き込まれました。「木」と壁の「白」とのバランスがちょうど良くて、落ち着けそうな雰囲気……。主人は黒い板張りの外壁が気に入ったようでした。とり

あえず相談してみようと、浪岡に移転したばかりという県木住の新しい事務所に向ったのが去年の7月でした。

奥様の話 「スギ」の良さを再

発見したのが事務所を訪れたときなんです。本の写真で見ただけで、実際にスギを張ってある室内を目の当たりにして、玄



吹き抜けに梁を現わしにすることで平屋ながら充分な開放感のあるリビング



ダイニング・キッチン窓から隣地の畑が見える。野菜の育ち具合を眺めるのも楽しみになりそう



スギの木目が美しく映える吹き抜けの天井。ロフトはお子様たちの探検の場になりそう

閑に立って、いいなあ、と眺めました。温かきがあつて、落ち着いた雰囲気で、靴を脱いで上がった床の柔らかな足触り……。スギを見直した思いでした。事務所まで対応してくれたのが佐藤さん(佐藤時彦代表)でした。

佐藤さんのお話の中に、新鮮味を覚えた言葉があつたんです。「本物の木」という言葉。ふだんの生活ではまず口にしない

言葉ですよ。事務所に張っているスギは、近くの山のスギの木を伐り倒し、運び出し、製材所で柱や板に製材した「本物の木」。それに対して、アパートなどの床は工場で製造した合板フロアで、壁や天井も工業製品のビニールクロス。テーブルにしても、子供の勉強机や椅子にしても、暮らしの中には貼り合せたものやプリントしたもので、かきで、「本物の木」はなくなりました。——佐藤さんはそう話しました。

事務所に入って感じた安らぎは、「本物」に囲まれた心地よ

さだつたんですね。そのことを、いちばん肌で感じていたのは、実はハイハイし始めた娘だったような気がします。生まれて半年でした。床でハイハイしていたときのあの笑顔。無垢材の床だから安全ですしね。県木住を訪れて、いかに「本物の木」に触れて暮らすことが大事なことでした。なか、娘が教えてくれた思い

ご主人の話 佐藤さんが提案

してくれました。プランをひと目見て、「決まり」って思いましたね。要望が的確に反映されていた以上に、ひし形の土地を無駄なく生かし切っている点に感心しました。ふつうは前面の道路に対して建物を平行に配置するものでしょう。それを佐藤さんは、こちらが要望した居間から岩木山が見えることを優先して、窓を岩木山の正面に向くようにしてくれました。そうすると、建物は斜めになるんですが、結果的には良かったので、建物が斜めになった分、土地に

奥行の深い部分ができて、そこに車を縦に2台停められるようになったんです。予定ではカーポートに2台だったけど、後ろに1台増えて、カーポートの隣にも1台置けるから合計4台です。これはうまくいきましたね。

奥様の話 実は、県木住に依頼する前にプランをお願いした工務店もありましたが、私たちのイメージには合いませんでした。その点、佐藤さんの図面からは、土地をしっかりと見てくれた「視線」が感じられました。土地の形状や、方角、周りの環境に対して、どう建物を配置すれば最も有効な使い方になるか……。あとで聞いたことですが、私たちが相談に行っても、すぐに佐藤さんは土地を見てくれたそうです。そういう熱心さが問取りからも伝わってくるものですね。細かな変更はあったけど、基本的には1回で決まりました。土地にしても、建物にしても「縁」に導かれる



玄関から子供部屋への途中に設けられた洗面コーナー

ように恵まれました。

（取材終了後、佐藤代表が畑井様に、「縁側に座ってご家族の写真を撮りませんか」と提案した。「居間のソファでも1枚」と）

——ぜひその写真を今回の「本」に掲載させてください。

奥様の話 あら、いいんでしょうか。お願いします。（お子さん

たちを手招きして）「写真撮ってくれるんだって」「本に載せてくれるんだって。良かったねえ」

いい記念になります。

「本物」に囲まれた生活 無垢材、漆喰壁、薪の炎

佐藤時彦代表のコメント

畑井様邸が完成したのは今年の4月です。それからがご主



必要に応じて子供部屋を2部屋に仕切れるよう入り口の真ん中に柱を立ててある



子供部屋の天井にも現わしのアカマツの梁が

人の出番でした。薪棚づくりに奮闘されたのです。奥様のお父様も手伝ってくださいました。そろそろでき上がる頃かなと様子を見にお訪ねしたときのご主人のお姿が印象に残っています。薪棚の板壁に仕上げの塗装をしているところでした。服が真っ黒なのもかまわずに黙々と刷毛を動かしている背中から、薪ストーブのある暮らしへの期待感が熱く伝わってくるようでした。

畑井様からご相談の電話を頂戴し、その日の午後1時に事務所においでいただいたのが去年(2020年)の7月19日でした。

岩木山の見える土地を購入して建てたい。候補地はほぼ決まっているとのこと。家は平屋で、薪ストーブのある暮らし。子供が

のびのびと育つように天井を高く。床は無垢材で、壁は漆喰。——ご夫婦の要望項目をノートに書き留めていきました。ご長男に喘息があるので自然素材で建てたい、というのは要望というより必須条件です。



ご主人が「縁側」と呼んでいるウッドデッキからは岩木山が真正面に望める

お子様の健康が第一。平屋が希望なのは、2階に子供部屋を設けずに、同じ1階の広い空間でのびのびと過ごしてほしいから、という親心。屋根を片流れにし、吹き抜けに梁を現わしにすれば平屋でも充分な開放感を得られるし、ロフトも取れる。

——お話をうかがいながら、頭の中の方眼紙に見えない設計の線を引いていました。

外壁は黒い焼きスギ。床は無垢のスギ。壁が漆喰で、薪ストーブ。県木住の家づくりにぴったりのご要望でした。土地を下見に行ってみると、視界をささぎるものがないリビング畑の奥に岩木山がまるまる見える、願ってもないロケーションでした。角地だから、両隣に民家はなく、視界に入るのはリビング畑と岩木山だけ……。窓から見える岩木山の姿を思い描



リビングと子供部屋(奥)を結ぶ渡り廊下のようなロフト

きながら、間取りを書き進めました。

提案したプランは、さいわい1回で気に入っていたできました。リビングの続き間の子供部屋と、北側の主寝室を変更するなど細部を調整してOKになりました。

ご夫婦ともまだお若いですが、打ち合わせをしていて感じたのは“本物志向”だということ

ことです。自然に育った本物の木。スギの柔らかな足触り。漆喰の調湿・抗菌作用によるきれいな空気。薪が燃える炎の暖かさ。——そういうものを大切にしていらっしゃる。木のぬくもりが深く染み入るから心が豊かになる、のだと思います。

本物の木の家で、2人のお子様も岩木山を眺めながら大らかに育ってほしいものです。



青森の木で家をつくる 企業組合
県木住

企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
<http://www.kenmokuju.com> E-mail: info@kenmokuju.com
■アーバンタウン石江 県木住展示場
青森市石江字岡部47の28

